

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット (1階 さくら)		
所在地	〒606-0024 京都府京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670600424&SCD=320&PCD=26
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームは、利用者の意思やこれまでの生活歴を大切に、その人らしい生活を送れるように支援に努めています。また、利用者が当該ホームでの役割を持ち、生き生きと暮せるように四季に合わせた行事や、外出等を行っています。そして、日々の生活の様子を写真におさめてご家族の方にもここでの暮らしが少しでも伝わるように広報誌を作成しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清潔感ある当該事業所では、自由な暮らしや様々なレクリエーションの取り組みで、生き生きとその人らしい暮らしの実現を理念の中心に掲げ、思いの実践に取り組んでいます。利用者の重度化も懸念される中で、自分の足で歩くことを徹底したり、排泄支援では失敗の原因やタイミングの見極めなど、こまやかな支援で失敗を無くし、心地よい生活に繋がっています。食事時には当番表に沿って利用者の出来る事を手伝ってもらい、自信と誇りが責任感と共に芽生えるよう取り組んでいます。職員は研修や勉強会で得たことを、様々な場面で利用者の出来る事が個々の喜びに繋がる支援となるよう話し合っています。地域からも多くのボランティアが、利用者の力の引き出しを職員と共に試み、活け花や、音楽療法、紙芝居や傾聴など多彩な応援が得られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から理念は変わりがなく、時々見直してみるが、理念のとおり実践しているので、今のままでという結論になる。地域との関わりも広がって来ている。	利用者の自由な暮らしと生き生きとした生活を主とする理念は毎年職員間で振り返り確認しています。職員会議では利用者が日々の動きを通じて役割を担える事があるかなど話し合い、理念に沿った支援になるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地蔵盆の行灯作り、地域の神社の初詣、茅の輪ぐり等の行事に参加したり、買い物に出掛けたり、散歩で地域の皆さんと挨拶を交わしたり、敬老会の招待を頂いたりしている。日頃から関わりをたくさん持てるように努力している。	日々の散歩で挨拶を交わしたり、自治会行事には様々な声掛けがあり参加しています。婦人会や小学校などに認知症サポーターの講演に出向き事業所の存在を知って頂く機会を作り、多くのボランティアによる生け花教室や音楽療法、読み聞かせ、紙芝居など利用者の興味や趣味の再開発が、地域交流の中から生まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの協力を得て地域との関わりを持てている部分が沢山ある。職員が認知症サポーター養成講座のお手伝いをさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期に行っている。活動内容の取り組みを説明したり、状況を伝えたりしている。3ヶ月に1度発行している広報を見ていただいたり、努力をしている。アドバイスを活かしている。	2ヶ月に1度の運営推進会議では、事業所の状況報告や行事、職員の研修やヒヤリハットなど広報誌と共に伝え意見交換がなされています。運営推進委員の交代時などには、認知症について勉強会をしたり質疑など活発な意見交換があり、事業所理解に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を送付している。メールで左京区の情報が共有できている。左京区支援保護課から問い合わせ等がある。	区役所との情報のやり取りが日常的にあり、問題があれば話し合える状況にあります。また、市の主催するネットワークへの参加などで協力関係をえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないのが、グループホームだと考えている。重度化して夜間睡眠中でベッドから転倒の恐れがある利用者の場合、床で寝ていただいたりしている。徘徊者がいらっしやても玄関の施錠をしない、チャイムで対応したり危険な時はそばで見守ったりしている。	新人の職員には言葉使いや対応も含めた研修受講があり、事業所内外の研修への職員派遣で身体拘束についての理解を深めています。万が一不適切な言動があればその場で注意をしています。玄関は施錠せず、チャイムで対応し、職員が見守り対応する体制があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修及び外部研修でも虐待防止について学んでいる。日々の介護でも虐待が行なわれないように又行なわれないように注意をしている。		

グループホーム カスタネット（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受けたり、実際に後見人で司法書士の方が来所するなどの機会がありました。活用できる支援まではしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、特に重要事項説明書等は丁寧に説明を行い同意を得ている。過去に起きた説明不足などの経験から学び十分な説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望は検討をして少しでも答えられるようにしている。その結果が運営に反映させられ質の向上に繋がっていていると思っている。	面会の家族も多く、意見や要望を聞く機会となっています。月々送られる担当職員の便りの中でも意見が聞けるよう訴えています。食事について利用者に向けてアンケートをとったり、日々の様子を知りたいと言う家族の要望から、月々の便りになるなど出された意見は速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で意見や提案を聞き、出来る事は極力反映させている。運営はみんな考えて一緒に行なう事がいいと話している。	職員会議では職員から多くの意見が出されています。身近な事など業務改善として提案され、出された意見は職員間で検討し実践に繋がっています。職員に気になる様子が見られた時には、個別の面談を行う事も職員が自主的に提案できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も一従業員と同じ勤務体制で働いているので職員個々の勤務状態等は十分に把握している。職員の向上心により、よりよい運営が出来ることなので、極力環境整備や条件は考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では今知ってほしいことや学んでほしい事はすぐに取り入れている。外部研修等は研修内容に合わせ職員を選択している。また希望も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと交流を持ち 研修会や合同の運動会、職員交換研修など積極的に進んでいる。毎年、新人研修、管理者研修、看護師研修など皆で課題を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を抱え入所されているので、まず人間関係を築くことが大切で、集中的に接し本人の話をよく聞き安心感を持って頂けるように笑顔で接し不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いは職員には計り知れない複雑な気持ちと安堵の気持ちがあると思う。家族にとっても家なのでいつでも来てくださると伝え、やはり家族の思いをしっかりと聴くことだと思う。どうしてほしいのかも尋ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を望んでいるのか、必要としているのかを聞き取り、なるべく希望に沿えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しく暮していただきたい職員の思いは強く、共同で作業を行なって頂いたり、レクを行ったり雑談できるように場の設定を考えたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはご自分の家だと思って下さいと伝えている。面会にいらしたときに情報や伝えたい事をお話し、家族からも聞かせていただいている。行事の参加もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が訪問しやすいように心がけている。家族の希望や要望にも答えている。親戚の方に挨拶の電話を取り次ぐ事もまたメールで状況を伝えるなど家族の絆の大切さを感じている。	友人や近所の方などの来訪も多く、電話のやり取りも含め支援をしています。住んでいた家を見に行ったり、行きつけの美容院や馴染みのスーパーに行くなど今までの関わりを大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつまでも利用者同士の交流があるようにまた出来るように関係を築いていける支援を行なっている。人と人の交流は本来の姿だと思う。その考えが基本にある。		

グループホーム カスタネット (1階さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年の退所後、家族から近況報告があったり、今も年賀状が届いている方もおられる。本人は殆どの方が入院か死亡退所である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	水彩画を趣味にして居室で黙々と書かれている方、短歌を作るのが趣味の方、お手伝いをする事が嬉しい方それぞれに支援している。	入居時にはセンター方式などを使い、家族構成や経歴などを家族に記入して貰ったり、担当ケアマネジャーなどから情報を得ています。困難な場合には担当者が中心に、表情や出てきた言葉を記録し職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや家族、利用者からお話を聞かせていただいている。後日、聞きたい事があれば家族の面会時の時にお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表や医師の診療記録等、ケース記録、カンファなどから一人ひとりの状態を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は元より家族からの要望や意見をお聞きしている。カンファレンスで、今までに得た情報を伝えたり職員の意見や思いを話し合っている。	アセスメントを基にサービス担当者会議を開催し、担当者や看護職員も含めて利用者の思いを反映した介護計画を作成しています。見直し前にはモニタリング、評価を実施し、状況の変化がない場合は6ヶ月から1年ごとに、変化があれば随時に介護計画を見直ししています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録、健康管理表等で把握、行事参加の時の様子の書き込みなどで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで生活していた家を見に行ったり、喫茶店で寛いだり、コンサートを見に行ったり、和菓子を食べに行くなど出来る事に取り組んでいる。		

グループホーム カスタネット (1階さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法活動や活け花教室でボランティアをしてくださる方、診療所、喫茶店、スーパー、神社のお祭り、地藏盆、地域包括支援センターなど地域の皆さんに支えられながら暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師は利用者の心身両面の状態をよく把握して下さり、何かあれば電話で報告・連絡・相談できるシステムになっている。夜間は医師の携帯と直接話ができる状態になっている。	入居時には希望のかかりつけ医の継続などの意向を聞いた上で、殆どの方が納得の上、協力医に変更しています。協力医の往診は毎週あり、緊急時は24時間の連絡体制があります。希望によりマッサージや歯科の訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によく相談したり情報を伝えている。細かい情報も(皮膚の変化、爪の状態、耳垢)伝え診て頂いている。また医師、看護師との勉強会も行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は面会に行き、その時に何度か医療ソーシャルワーカーと話をしして状況を聞き退院が何時ごろになるのかなどのお話もしている。また看護師にも声掛けを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的検査結果により医師が早い段階から、直接家族にお話をしている。職員が話しに交わる時もあるが、そうでない時は後日、診療所から報告があり、家族の思いを知る事が出来ている。	看取りに向けた契約書があり、入居時に家族の確認を得ています。実際には看取りの経験もあり、家族や医師を交えて三者会議を行い、方針を共有しています。看取りに向けて、医師による勉強会や外部研修などで職員の意識や知識を高めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は代表者・管理者に連絡するようにしている。診療所に連絡・相談している。特に夜勤帯はもう1人の夜勤者の協力も得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、身につけている。避難訓練では近所の方や運営推進委員の協力も得ている。年2回行い、1回は消防署立会いの下っている。	年2回避難訓練を行っています。主に夜間想定で、近隣に声かけをし緊急連絡先になってもらったり通報訓練や避難誘導などを共に行い、協力体制を築いています。また、地域の防災訓練には職員が参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の前に、人として尊重するように、また自分がしてほしいことはしないように、常に相手の気持ちに立つようと指導を受けている。	職員は認知症家族の会の話を参考にしたり、研修に出かけ、利用者の対応や人権についての姿勢を学んでいます。利用者との関わりを大切にすることがその基本と考え、日々の関わりや支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によくお話をしている。いつもではないが時に話をする中で希望を話されたり、気づきが生まれたりする。利用者本位であるようにと学んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々合った誘導の言葉掛けは行っている。散歩に行きましょうか。お習字をしますか。日記を書きますか。レクをしますかなど、何かしたい事があれば言って下さいと希望を聞く事も。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はいつも清潔を心がけ、髪は乱れないように気をつけている。出張理美容にも注文をつけたり髪染をお願いしている。時々マニキュアやお出かけにはお化粧を施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を農園で作り、新鮮な野菜でお料理作り、下ごしらえから盛り付け、片付けまで出来る事は手伝っていただいている。食事前は軽い体操を行い食事中は音楽をかけている。	切る、皮をむく、配膳膳など利用者の出来る事を見つけ、当番表に掲示し当日の役割を担って頂き、利用者のやる気や誇りを引き出すようにしています。食べたいものを献立に取り入れながら食材の買い物なども手伝ってもらっています。行事食や外食、好みのおやつなどを、職員と一緒に話しながら食べる事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をその度に記録している。その記録を医師や看護師が把握できるようにしてアドバイスを頂いている。状態に合わせて食事量の増減も考え、体重管理等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きをキッチリ行っている。スポンジで歯茎の汚れを落とす、歯間ブラシを使う。義歯を外して本人に洗って頂く。夜間はポリデントを使用。職員は常に見守りであったり、声掛けや一部介助で支援している。		

グループホーム カスタネット (1階さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を使って時間誘導している。夕食後便秘薬を服用した方は夜勤者から朝礼で情報が入り、トイレで排泄できるように支援を行っている。ちょっとした行動からトイレに行きたいのか察知して誘導している。	事業所は出来る限りトイレでの排泄を支援して行きたいと考えています。失敗の原因やタイミング、しぐさなどこまめな観察で排泄支援を行い、多くの利用者はおむつから紙パンツ、布パンツとパッドに移行するなど、自立に向けた心地よい生活への変化が見られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに飲用していただく。散歩に出掛ける。繊維の多い野菜の摂取。体操を行うなどまた 2日便がなければ3日目に便秘薬を服用してもらうことを決めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や意思も確認している。入浴剤を使い温泉気分を味わって頂いている。寒くなると足浴も施行浮腫が減ったとか足美人だとか効果は大きいと思う。	3時過ぎから夕食までの間を入浴時間とし、利用者の好みに応じた入浴となっています。冬至にはゆず湯にしたり入浴剤の利用など季節に応じた入浴になるように心がけています。拒否傾向にある方は時間をずらしたり、職員が交代して声かけをするなど、週3回を目途に入浴の支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏時、ベッドで休む事で精神面が落ち着かれる方。一日中車椅子の生活なので、疲れを取るのにお昼寝をしていただいている方。冷え性の方にアンカーを入れたり湯たんぽを使用したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との勉強会や処方される薬が何であるかまた副作用が分かるように医師から説明がある。 処方された薬で副作用があるようだったら職員が観察して報告するように情報が伝達されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方が多く歌詞カードを3種類揃えて毎日のように唄っていただいている。洗濯、食器洗い、食事の下ごしらえ、盛り付けなど出来る事や得意な事を手伝っていただいている。季節の貼り絵や習字、行事の準備、将棋、輪投げなど		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏であれば、五山の送り火を見に行ったり、桜や紅葉をドライブで何度も見に出掛けたり、地域の運動会(見学)や地域の行事にも参加させていただいている。 コンサートや和菓子を食べに出掛けるなどしている。	天気の良い日は散歩に出かけ、歩いて買い物に行くなど日々の生活がリハビリになるように考えています。その日の希望で外出を楽しんだり、時には来訪中の家族も一緒に出かけています。近くの大学の演奏会や、好みの歌手のコンサート、老舗の菓子店でお茶をするなど個々の希望に合わせて自由に出かけています。	

グループホーム カスタネット（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している利用者はいらっしゃらない。重度化でもあり家族との話で決めている。 散歩に出掛け、時々スーパーで買い物をしている家族がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたり手紙のやり取りが出来るならたくさんの支援を行ないたい。現在はあいにくいらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いがないように清潔に気をつけている。時々精神面が安らぐように、お香をたいている。 季節感を味わっていただけるように季節のお花を（施設で取れた花であったり）飾る。西日が強いのでカーテンをするなど工夫をしている。	職員は利用者と共に清掃を行い、徹底した清潔に保たれています。手作り作品の掲示、生け花教室での作品や季節毎の思い出の写真、利用者の書など、目を和ませる飾り物が飾られ、居心地の良い空間となるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下などにソファ、居室にテーブルや椅子などを置いて使用していただいている。天気の良い日は外の椅子なども利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談をして、家で使用していた物、思い出の物をお部屋に置いていただき安心感が得られるようにしている。小さな仏壇など。 本人が書いた習字や絵も貼らせていただいている。	入居時には利用されていた道具などを持参してもらおう声を掛けています。使い慣れた椅子やテーブル、ホーム炬燵など好みの家具が居室に配置されています。収納力がある押入れが各部屋にあり、整理整頓されています。希望によっては畳と布団など好みに応じる体制があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸は明るい色にしている。遠くからでも分る。居室は表札で表している。お風呂は「ゆ」のれんを掛けている。今日の日が分り一日のメニューが分るようにしている。手摺は玄関とトイレの一部だが支障はない。		